

枕草子 二時間目

清少納言

課題

◎現代語訳を参考に(1)～(3)、(2)、(3)ページ下段作者の好きな時間帯の好きなものや様子を季節ごと(1)～(3)までおまじい。

季節	好きな時間帯	好きなものや様子 (「風情がある」「趣深い」「よい」)
(例)	明け方	・山ぎわが(少し明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている)のは風情がある。
春		
夏	夜	<ul style="list-style-type: none"> ・(月)が出ている時は言つまでもないほどよい。 ・蛍が(多く飛びかっている)のがよい。 ・螢が(ほんの「一、二匹ほのかに光って飛んでいくのも)趣がある。 ・雨が(降っているのも)よい。
秋	夕暮れ	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥が(ねづらへ行くというので、三、四羽、二、三羽などと飛び急ぐ)こどもでもしみじみとしたものを感じさせる。 ・雁などが(列を作っているのだが、たいそう小さく見えるのは)たいへんおもしろい。おもしろい。 ・日が(すっかり沈んでしまって、風の音、虫の音)などがするもの、これもまた、いようもないほど趣深い。
冬	早朝	<ul style="list-style-type: none"> ・雪が(降っているのは)言つまでもないほどよい。 ・霜が(真っ白) (なものもよい。も)たいそう寒いときに、(火などを急いでおこして、炭をもって廊下などを通して)いくのも(たいへん似つかわしい)。

清少納言は、冬には「好ましくなく」ものを最後に書いています。

昼になって、寒さがだんだん緩んでいくと、(火桶の火が白い灰ばかり)になって、好ましくない。

◎作者はどの季節の「見方」や「捉え方」をしているのか、それらを用いた「表現」(文章の書かれ方)については、何を言っているのかをまじい。

- ・それぞれの季節の好きな(嫌いな)時間帯を述べた後に、その時間帯で好きなものや様子を短い文で具体的に述べている。
- ・美しい光景を目に浮かぶように詳しく書いている。
- ・目で見た景色だけでなく、虫の音など聞こえてきたことや、寒さなどのさわった感覚についても表現している。
- ・「紫」「闇」「白」など、色を豊かに描き表している。

例えば・・・

作者は、好きな(嫌いな)ものや様子を述べるとき、どんな順序で説明しているかな？

(例)作者は、それぞれの季節の()？ (述べたあとに、()？ (述べている。